

総 評

「原風景としての農」

岡山県立大学

デザイン学部 准教授

北 山 由 紀 雄

多数のご応募、誠にありがとうございました。22世紀につなぐおかやまの「農」の風景をテーマとして、審査を進めていきました。

このテーマに接したとき、それは日本の「原風景」としてある「農」の姿であると考えました。

日本の原風景としてあるべき姿は、壮大な建造物でも、荒れ果てた土地でもありません。その風景は、よく手入れをされ、豊かな実りをもたらす田畑が広がるものであると思うのです。そしてそれは、単に美しい景色というだけではなく、それを作り出している人々の、誇り高き“営み”が含まれていることもまた、忘れてはならないのだと思うのです。

今回は、何気ない日常にあっても、切り取られた一枚の写真から、その営みが感じられる様な、そして穏やかなストーリーと豊かな時間がイメージできる様な作品を選ばせて頂きました。

時間が過ぎ、改めて今回選んだ写真を眺めたとき、それが単なる思い出として人々の心に回想されるのではなく、その時代にあっても、目の前に脈々と続くストーリーであることを願ってやみません。

次回も又、その様な「農」ストーリーを感じる事の出来る優れた作品を大いに期待しています。